

中山道河渡宿 雄大なる長良川の風景と渡し場の歴史をめぐる

歩きたる宿



中山道河渡宿は、長良川の渡し場のあったところで、幾度となく水害に見舞われ、そのたびにまちの様子も変わり、第2次世界大戦の戦災も受け、江戸時代の街道の名残りを留めるものは、多くはありません。そんな中でも川と共に築いたまちの歴史をあちこちに垣間みることができ、何といても長良川の清冽かつ雄大な風景がこの宿の見どころです。(約2.9km)

1. 河渡公民館

ここからスタート
公民館に駐車場と隣の公園にはトイレがあります。

2. 馬頭観音

天保13年(1842)に長良川河渡の渡し場に、6間四方のお堂を建て、旅人と大切な馬の安全祈願や供養をしたのがはじまりで、渡し船の待合室としても利用された様です。現在の位置になるまでに3回移転されています。
本来は、怖い顔の馬頭観音様ですが、この観音様は怖さの中にも優しさを感じる表情をしています。



3. 中山道に向かって緩やかな坂

河渡宿は文化12年(1815)から文化15年(1818)にかけて、宿場全体を5尺(約1.5m)かさ上げされています。工事を行ったのは、美濃郡代の松下内匠堅徳(まつしたないしのかみかたのり)でした。幕府から2000両(約1.6億円)を支出させ、工事を行い、これにより河渡宿は水害の心配から解放されたのでした。



4. 杵築神社(きつきじんじや)

水害で何度も流された河渡宿の中で、昔と変わらぬ位置に建っているのがこの杵築神社です。祭神は素戔鳴尊(すさのおのみこと)で、ご神体は朴の木であることから、「朴葉寿司は食べてはいけない」とか「朴の木を歯に使う下駄を履いて境内に入っては行けない」という言い伝えがあるそうです。

5. 一里塚、松下神社

街道の距離の目安として、一里(約4km)ごとに築かれた一里塚の跡です。奥に2つ並んでいる小さな社は「松下神社」で、河渡宿のかさ上げ工事を行い水害から宿を守った松下内匠賢徳を祭神としています。文化15年(1818)に宿場の人たちが、松下代官の功績を讃え、感謝の気持ちを伝えよう記念碑を建てたのですが、昭和20年の空襲で破損し、今は記念碑の基礎の一部が残るのみで、現在の神社は戦後に再建されたものです。



6. 河渡の鵜飼跡

長良川と言えば鵜飼漁が有名ですが、江戸時代には、この辺りでも鵜飼漁が盛んに行われていました。河渡の渡し場の下流に鵜飼舟の船着場があったそうです。溪斎英泉作『木曾街道六十九次』の河渡宿にも、長良川の鵜飼が描かれています。

7. 長良川の絶景が楽しめるサイクリングロード

河渡宿のある長良川右岸の堤防は、サイクリングロードになっており、長良川の絶景を楽しみながらお散歩やサイクリングが楽しめます。

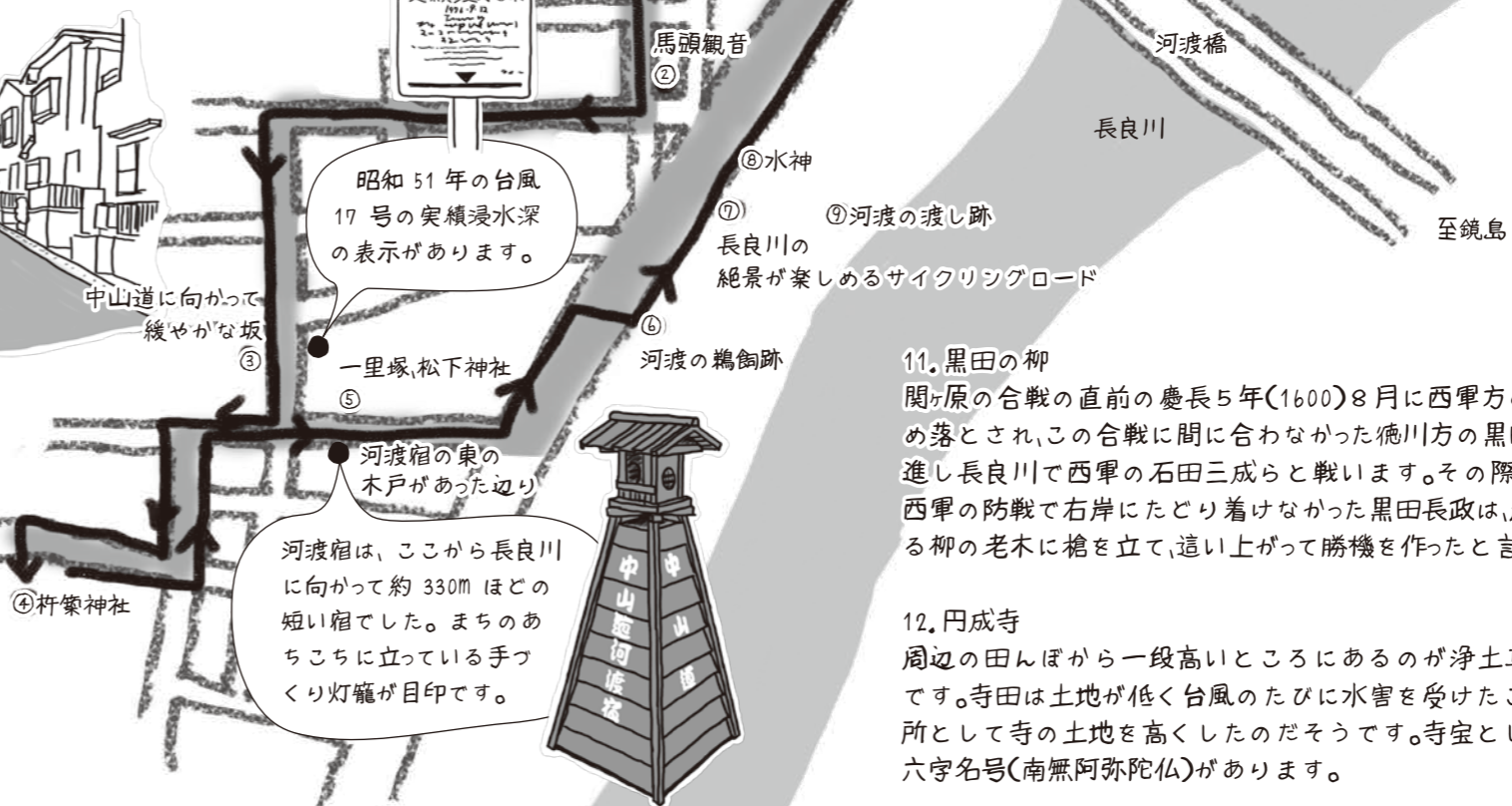
8. 水神

堤防の端の小さな社は水神様で、ここからちょうど長良川に下ったところが河渡の渡し場の跡です。



9. 河渡の渡し跡

昔渡し場のあったところです。明治14年(1881)に河渡橋が架けられるまでは「河渡の渡し」が利用されていました。



10. 河渡城跡

戦国時代に、土岐氏の家臣であった井戸十郎が屋敷を構えたことに始まるといわれます。その後、美濃三人衆の一人、稲葉一鉄らが美濃攻めのために増築し、長良川、伊自良川、夕部池、樋爪川を自然の堀として活用した本格的な城となりました。今は何も残っていませんが、堤防の下に一段高くなっている場所が城のあったところだそうです。

11. 黒田の柳

関ヶ原の合戦の直前の慶長5年(1600)8月に西軍方の岐阜城が攻め落とされ、この合戦に間に合わなかった徳川方の黒田長政らが西進し長良川で西軍の石田三成らと戦います。その際、川が増水し、西軍の防戦で右岸にたどり着けなかった黒田長政は、岸に生えている柳の老木に槍を立て、這い上がって勝機を作ったといわれます。

12. 円成寺

周辺の田んぼから一段高いところにあるのが浄土真宗の円成寺です。寺田は土地が低く台風のために水害を受けたことから、避難所として寺の土地を高くしたのだそうです。寺宝として、蓮如筆の六字名号(南無阿弥陀仏)があります。

